

作業事例集で 手順を見える化 円滑な作業を

農作業は、作物の種類や栽培方法の他、農業者によって作業方法や注意点が異なります。また、障害のある方の持つ特性などにより、実施できる作業が異なります。そこで、農業者ごと・障害者施設ごとに、受委託する作業の内容に合わせて事前に手順を確認することが大切になります。

本書では、これまで行われた作業事例をもとに、標準的な手順を取りまとめましたので、作業前の確認の際にご活用ください。

なお、事例集とフォーマットは、以下のアドレスから入手できます。

山梨県農福連携推進センター

<https://www.pref.yamanashi.jp/shogai-fks/noufuku.html>

掲載事例一覧

- 事例①:もも 摘果(予備摘果)P.18
- 事例②:ぶどう 傘かけP.19
- 事例③:すもも 花粉採取用の花とりP.20
- 事例④:果樹共通 せん定枝の片付けP.21
- 事例⑤:スイートコーン 皮むきP.22
- 事例⑥:いちご 苗の定植P.23
- 事例⑦:だいこん 洗浄P.24
- 事例⑧:さつまいも 収穫後の手入れ、仕分けP.25
- 事例⑨:花苗(ビオラ) 鉢上げ準備P.26

作物・作業名・
作業内容

事例集の記載内容

この部分を切り取って、コピー
することで、障害のある方への
事前指導用のマニュアルとし
ても活用することができます



この部分を切り取って、コピーして障害のある方へのマニュアルとして活用できます。

作業の難易度

事例
7

だいこん 洗浄

易 中 難

収穫しただいこんを出荷するため、機械を使って洗浄します



① ●収穫しただいこんを袋から取り出す
※虫食いや割れたものは廃棄する



② ●だいこんの先端を洗浄機の回転しているブラシに押しあて、土の汚れを落とす



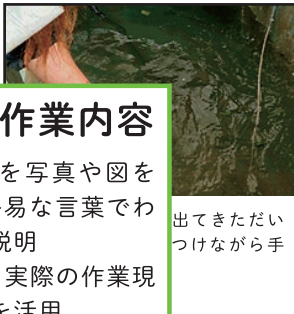
③ ●たゆむる

作業に使用するもの

●作業で準備が必要な道具、資材を記載

具体的な作業内容

- 作業の手順を写真や図を活用して、平易な言葉でわかりやすく説明
- できるだけ、実際の作業現場での写真を活用



出てきただいつけながら手



⑤ ●洗い終わっただいこんの向きをそろえ、コンテナに入れる

使用するもの



エプロン

服装

- 季節、作業に合わせて、服装などの注意点を記載
- 準備が必要な道具、資材を記載

作業時期 10月上旬～11月下旬

服装

- 寒い時期であり、防寒対策をしっかりとる
- 水を使う作業のため、撥水性のあるジャンパーやズボンの着用、ビニール製のエプロンなどの着用が望ましい
- 作業時は水はねなどで汚れるため、できるだけ長靴を履くようにする

注意する点

(作業者)

- 作業全般にわたってだいこんにキズがつかないように注意する
- 指示された本数以上のだいこんをコンテナに入れない

(支援者)

- 冷たい水を使うので、大量に作業を行う場合には、適宜休憩をとるようにする
- 一人ですべての作業が困難なときは、二人以上で分担することも考慮する(洗浄+だいこんの手渡し・運搬など)

想定される作業時期を記載

注意する点

- 農業者の立場から、農作業で特に注意する点を記載
- 障害者施設の支援者の立場から、指導上の注意点を記載



この部分を切り取って、コピーして障害のある方へのマニュアルとして活用できます。

事例
1

もも 摘果(予備摘果)

易 中 難

余分な果実を取り除きます



①

手順

●小さい実、変形した実、枝の上側や横側、先端と根元についた実を取る



②

手順

●片手で枝を持ち、もう片方の手で実を持ち、回すように摘果する



③

手順

●10cm程度の長さの枝には1個、20cm程度の枝には2個～3個の大きな実を残す

使用するもの



低い踏み台(ぶどう用)等

作業時期 3月下旬～5月上旬

服装

- 春～初夏の作業であり、寒暖差が大きい日もあるので、体温調整しやすい服装とする
- 軍手では、枝や花がらがつくので、革やゴムでコーティングされた手袋を使用する
- 果実の毛やほこりが気になる場合はマスクを着用する

注意する点

(作業者)

- 後日仕上げ摘果を行うので、摘果しすぎないようにする
- 摘果の際、果実を無理やり引っ張ると枝や葉が折れたり取れたりするので気をつける

(支援者)

- 大きな枝の両側に作業者を1人ずつ配置して作業を進めると取り残しが少なくなる
- 不安定な場所での使用となるため、脚立の設置場所は指導者が安全を確認する





この部分を切り取って、コピーして障害のある方へのマニュアルとして活用できます。

事例
2

ぶどう 傘かけ

易 中 難

ぶどうの房を雨などから守るため、1房ずつ傘をかけます



① ●傘の切れ込みに軸をはさむ

手順



② ●切れ込みの両側を重ねる

手順



③ ●重なった部分をホチキスで留める

手順

使用するもの



前掛け
(傘を入れるためのもの)



傘



ホチキス

作業時期 6月下旬～7月中旬

服装

- 暑い時期のため、比較的軽装でよいが、紫外線が強いので、長袖、帽子着用が望ましい
- 雨上がりや水やり後などは、長靴が望ましい
- 手先の細かい作業になるので、手袋を使用する場合は、薄手の作業用のものを準備する

注意する点

(作業者)

- ぶどうの房が傘の中央になるようにする

(支援者)

- やり残しがないように、あらかじめ一人ひとりの作業の範囲を決めておく

